

○タナドール顆粒 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ドカルパミン docarpamine 【分類】経口ドパミンプロドラッグ

【単位】○75%顆粒 [1g/包]

【常用量】2250mg/日

【用法】分3

【透析患者への投与方法】ほとんどがドパミンの抱合体として排泄されるため減量の必要はないと思われる (5) 【その他の報告】難治性腹水に効果がある (Funasaki T, et al: Am J Gastroenterol 94: 2475-81,1999)

【保存期 CKD 患者への投与方法】ほとんどがドパミンの抱合体として排泄されるため減量の必要はないと思われる (5)

【特徴】経口で有効なドパミンのプロドラッグ。ドパミン受容体 (DA1) に作用して腎血流量を増加させ、利尿作用を示すとともに、アドレナリンβ1受容体にも作用し、心収縮力を増強する。塩酸ドパミン、塩酸ドブタミンの持続的点滴療法から早期離脱するための経口剤とも位置づけられている。

【主な副作用・毒性】心室頻拍等の不整脈、嘔気、食欲不振、胃部不快感、肝機能障害など

【tmax】1.5hr (1)

【代謝】動物では肝、小腸、血中で加水分解によりドパミンに代謝される (Yoshikawa M, et al: Hypertens Res 18 Suppl 1:S211-3,1995) ヒトでは急速にドパミンに変換される (Yoshikawa M, et al: Drug Metab Dispos 18: 212-7, 1990) ドパミンはCOMTやMAOなどにより代謝され、尿中の代謝物はドパミンの抱合体、ホモバニリン酸、3,4-ジヒドロキシフェニル酢酸など (1)

【排泄】尿中回収率 67.8% [po, 24hr まで] (1) 尿中排泄物は遊離型および抱合体ドパミンが半分以上を占める (1) 尿中抱合体/遊離型比はドパミンで 44~66、homovanillic acid で0.5、3, 4-dihydroxyphenylacetic acid で0.6~0.9、deatoxycarbonylated 体で5.0~6.2 (Yoshikawa M, et al: Drug Metab Dispos 18: 212-7, 1990)

【CL/F】およそ10L/hr (1)

【t1/2】0.7hr (1)

【蛋白結合率】41% (1)

【Vd】データなし (1) 計算上 Vd/F は100L/man 程度 (5)

【MW】470.54

【透析性】ある程度透析されると思われる (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない

【OW係数】1666 [クロロホルム系/pH6.8] (1)

【更新日】20151130

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。